



山形県におけるブドウ病害虫防除暦の考え方

山形農業総合研究センター 園芸農業研究所 後藤 新 一

はじめに

2024年度の山形県におけるブドウの結果樹面積は1,370 haで山梨県、長野県に次ぎ、全国第3位を誇る（農林水産省大臣官房統計部，2025）。品種別では‘デラウェア’が約55%を占め主力品種となっているが、近年は‘シャインマスカット’をはじめとする大粒種の割合が増加傾向にある。また、栽培様式別では露地栽培のほか、雨除け・施設栽培（加温栽培，無加温栽培）が行われている。このように山形県内のブドウ栽培は多岐に渡っており，病害虫防除にあたっては，各々の栽培様式に適した防除体系の構築が求められている。山形県では毎年，「農作物病害虫防除基準・除草剤使用基準・植物生長調整剤使用基準」（以下，県病害虫防除基準という）を策定し，生産現場の効率的・効果的な防除対策の資料として提示している。なかでも果樹については，防除暦形式とし，「防除時期」，「対象病害虫」，「防除方法」等について取りまとめている。本報では，現在の山形県におけるブドウの県病害虫防除基準の特徴と作成にあたっての考え方について解説する。

I 山形県病害虫防除基準の作成

1 県病害虫防除基準作成の歴史

山形県におけるブドウ防除暦は，1962年から現行の「県病害虫防除基準」の名称で作成され，露地栽培の‘デラウェア’を対象とした防除計画であった。当時は病害虫防除に関する事項のほか，一般管理作業に関する項目が設けられていた。一方で‘キャンベル’，‘マスカットベリー A’等，その他の品種に関しては，「注意事項」の欄に補足として記載されている程度で，当時はいかに‘デラウェア’主体であったが読み取れる。その後，1977年からは「露地栽培の‘デラウェア」および「露地栽培の欧州種」の二つの防除暦が作成され，1979年からは「露地栽培の‘デラウェア」，「ハウス栽培の‘デラウェア」，

「欧州種」の三つに区分された。さらに1982年からは「露地栽培の‘デラウェア」，「露地栽培の欧州種」，「ハウス・雨除け栽培の‘デラウェア」，欧州種」の三つの防除暦を作成し，1984年からは‘欧州種’を大粒種に改めた。2006年からは現行の「露地栽培の‘デラウェア」，「露地栽培の大粒種」，「ハウス・雨除け栽培の‘デラウェア」，「ハウス・雨除け栽培の大粒種」の四つの防除暦を作成している。このように，本県のブドウの栽培品種や栽培様式の変遷とともに，防除暦も実情に応じて改訂してきた。

2 編成体制

県病害虫防除基準の策定にあたっては，毎年，県の行政機関，各試験研究機関，病害虫防除所の担当者から構成される策定会議において，生産現場で問題となっている病害虫に対する防除対策や各JAや出荷組織等の関係団体からの要望事項を踏まえ検討している。また，発行に際し，農薬使用基準の誤記載を防止するため，前述の県関係機関が連携し，記載されている全農薬の使用基準について三重点検を行っている。

3 作成スケジュール

本県では毎年2月末ごろに県病害虫防除基準を発行している。まず，作成にあたり4月に最初の策定会議を開催し，前年の積み残し事項等を関係者間で共有するとともに，10月に開催される各専門（作物）部会での改訂に向けて原案の作成を行う。次に8～9月にかけてJA等の関係団体や県農業技術普及部門を通じて，生産現場で問題となっている病害虫や県病害虫防除基準に対する要望事項を集約し，その後10月の各専門（作物）部会で，各要望事項等について協議する。11月の策定会議で協議結果を確認後，原稿の修正を行い，12月～翌年1月にかけて，県関係機関（行政機関，試験研究機関，病害虫防除所）で掲載されている農薬の使用基準等について三重点検を行う。三重点検後の指摘事項等について，確認，原稿修正し，2月末ごろに印刷，発行するとともに，県が運営する農業情報サイト（やまがたアグリネット（通称：あぐりん））で会員（2025年3月末現在8,323名）向けに公開する。

The Concept of a Grapevine Pest Control Calendar in Yamagata Prefecture. By Shinichi Goro

（キーワード：山形，ブドウ，病害虫，防除，防除暦）